

天才アート KYOTO



天才アートとは、障碍
のある人の多くがもつ
優れた感性と表現力、
そこから湧き出る独

創的なアート作品に対して、特定非営
利活動法人 障碍者芸術推進研究機構
(天才アート KYOTO) が独自にネーミ
ングしたものです。当機構は天才ア
ートを推進し、その啓発・普及活動を積
極的に行っています。

会 報
No. 20

天才 アート

発行日 2019年6月28日（金）

発行者 特定非営利活動法人
障碍者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒605-0811
京都市東山区大和大路四条下る
4丁目小松町 四条・新道アトリエ
info@tensai-art.kyoto
http://tensai-art.kyoto

編集 株式会社 三六六



『アンズリウム』服部可葉恵 Kanae HATTORI 1994 年生 W391×H543mm ケント紙・アクリル・サインペン 2019 年

展覧会

予 告

第2回 天才アートライブ展

『奏・描・愉』の開催

かなでる えがく たのしむ

昨年(2018)の第1回に続き、7月5日(金)～7日(日)の3日間、音楽とアートの七夕ライブとしてジャズの『演奏』と団扇に『描く』ライブを、高瀬川のほとりの京町家ギャラリー「高瀬川・四季AIR」で『愉しむ』をテーマに、天才アートライブ展『奏・描・愉』を開催します。

■ライブ「奏」プログラム

「Jazz」ジャズ演奏／ピアノ 下嶋千佳・ベース 勝方浩 □7月6日(土) ①13時、②15時／演奏時間は①②とも30分

■ライブ「描」プログラム

天才アート新道アトリエ所属の作家10名の参加を予定 □会期中に随時制作 □内容…手描き団扇絵／手描き絵葉書展示・頒布あり

■そのほかの展示と頒布

□天才アートオリジナル「複製画」…作品数30点／制作数各限定10部 □天才アートデザイングッズ…手描きトートバッグ・クリアファイル・ポストカード 他 □企業とのコラボグッズ…京扇子・ふるしぎ・スポンジクロス・和ろうそく



展覧会

報 告

第5回 天才アート企画展「2つのNAGARE」を開催

2019年5月18日(土)から5月26日(日)まで、堀川御池ギャラリーにおいて第5回 天才アート企画展「2つのNAGARE」を開催しました。

同展は、「動植物」の写真をもちベーションとした高畠晃平、長村駿、服部可菜恵と「メディア」上で興味をもったロゴをモチーフにした富田晃生の4名が、「川の流れ」のように10年以上にわたって創り続ける作品群を「動植物」と「メディア」という「2つのNAGARE」を企画コンセプトにしたものです。

今回は、来場者に企画コンセプトをより体感してもらうために、通常の額装壁掛け展示とは違った展覧会構成を行いました。

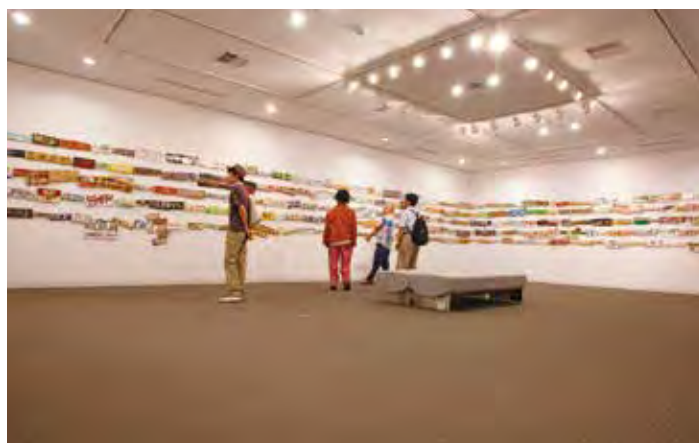
ギャラリーB室では、高畠晃平、長村駿、服部可菜恵の作品を、壁から壁へと紐を張りめぐらせ、作品の流れのようにして展示しました。高畠作品の鮮やかで力強い動物たち、長村作品の即興で描かれたユーモラスな動植物たち、服部作品のシンプルにデフォルメされた愛らしい植物たち、それらの作品が壁面から解放されることにより、描かれた動植物たちが観客に迫って見えるようにと意図しました。作品が観客を取り囲むことによって、多種多様な動植物たちが宿す多様な生命の「流れ」を強調した構成でした。



高畠晃平・長村駿・服部可菜恵の作品を紐を張って展示したギャラリー B室

ギャラリーC室では、富田晃生の約500点におよぶロゴアート作品を、同じく観客を取り囲むように展示しました。富田作品はCMなどの映像メディアに流れるロゴを記憶し、家庭で使用したパッケージなどの厚紙を用いて独自に「再生」させます。彼の記憶を通して制作されたロゴアート群は、観客とも共有された記憶でもあり、それと同時に現代の映像メディアの歴史の「流れ」でもありました。

それぞれがもつ創作スタイル(流儀)へ



約500点におよぶ富田晃生のロゴアート作品を展示したギャラリー C

のこだわりと、大河の流れのごとくよどみない持続力が生み出す作品群に、「エネルギーや勢いに圧倒された」「作品を作る楽しさを感じた」「感性が素晴らしい」「展示を少数人数に絞ることで個性をじっくり楽しめた」など多数のアンケートが寄せられました。

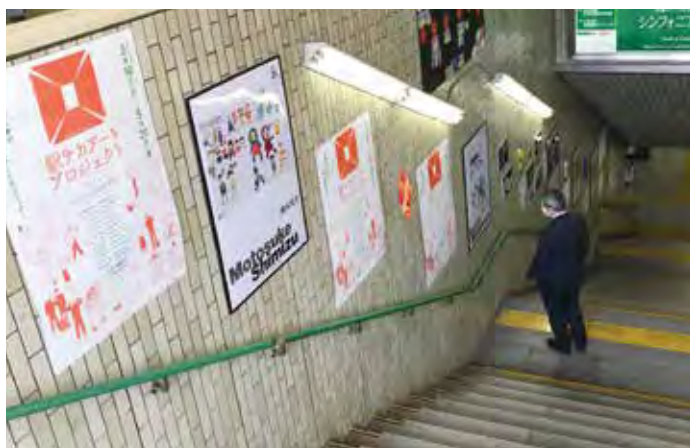
今後

今後も従来の展示方法に捉われないのではなく、個々の作品がもつ特性に合わせて、作品の魅力を最大限に伝えていける展示構成を行なっています。

駅ナカアートプロジェクト2019 地下鉄北大路駅にて 天才アートKYOTO 作家ポスター展示

地下鉄北大路駅での「KYOTO 駅ナカアートプロジェクト2019」の作品展示に参加された大谷大学は、作品名「平成と令和の ka 咄『otani entrance』」in the exhibition the wall」と題し、駅構内を「和風感あふれるもの」「壁を展示作品で埋め尽くす」を目標として制作、展示されました。天才アートKYOTOの作家ポスターは、大谷大学の学生さんたちの書や写真と共に、階段の壁面に10点を展示していただきました。

「KYOTO 駅ナカアートプロジェクト2019」は、京都市内の芸術系を中心とする12大学と京都市が、「大学のまち京都」「文化芸術都市京都」ならではの「駅から京都の文化芸術を発信する」取り組みです。「学・産・官」の三者が連携し、大学生のアート作品で地下鉄駅構内を活性化することを目的に、「思わず振り返る」「じっくり見たくなる」「楽しい、夢がある」空間を目指し、駅を利用する人たちが写真に収めたいくなるようなデザインアート、インスタレーションに大学生たちが挑戦されたものです。作品は、平成31年3月18日(月)～令和元年5月31日(金)まで、約2カ月間にわたって展示。地下鉄や北大路駅を利用される多くの人に天才アートKYOTOの作品を観ていただく貴重な機会となりました。



地下鉄北大路駅の階段壁面に展示された天才アートKYOTOの作家ポスターと大谷大学の学生さんたちの作品

天才アートKYOTO登録作家による作品展示のご紹介

楠川敦士・根ヶ山恵司

「楠川敦士×根ヶ山恵司 2人展」

2019年4月3日(水)～4月9日(火)
会場…ぎやらい西利



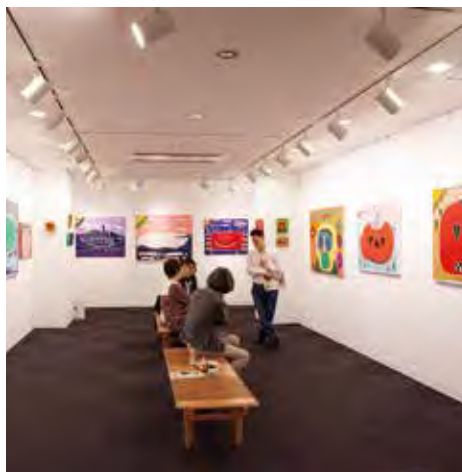
ゲシュタルト崩壊フラグ
15名によるグループ展
「作者は病気団展 in 福岡 サナトリウム入院編」
2019年4月11日(木)～4月23日(火)
会場…不思議博物館分室サナトリウム



土屋彰男

個展「宇宙ペンギンと仲間たち」

2019年5月1日(水)～5月7日(火)
会場…ぎやらい西利



影山弘樹

「キテ・ミテ中之島2019」

2019年5月18日(土)～6月16日(日)
会場…なにわ橋駅構内



TENSAI ART NOTE

天 オ
ア アート
ノ ノート



『無題 (数字シリーズ)』 ケント紙・サインペン・色鉛筆 W148 × H105mm 2018 年

知原 諒太 Ryota CHIHARA 1999年生

知原諒太は鮮やかな色面構成された絵画作品の他に、裏紙に丁寧にレタリングしたかのように描かれた数字のドロ잉シリーズがあります。ただの数字の無意味な羅列と思いきや、実在のラジオ局の周波数であるなど意味があったり、やっぱり意味がなかったりもします。知原作品を前にした時、世界が謎の数字で溢れていることを教えてください。



マイク(スピーカーでくさい)

『無題 (数字シリーズ)』 ケント紙・サインペン・色鉛筆 W105 × H148mm 2018 年

知原 諒太



三津田 一輝 Kazuki MITSUDA 1993年生

三津田一輝には『だるま』(元絵:「達磨図」伊藤若冲)のように、彼独自のアレンジが加わった模写シリーズがあります。他にも、『パンダ』のように彼独自のオリジナルの絵も描きます。よくよくこの『パンダ』の足を数えてみると実は6本足、それでも違和感を感じさせずに調和している不思議な絵です。



三津田 一輝

『だるま』
画用紙・クレパス
W392×H545mm
2019 年

『パンダ』
色画用紙・クレパス
W541×H392mm
2017 年



久保 直己

『駒井さんシリーズ』

上段左: 画用紙・色鉛筆・サインペン W270×H380mm

上段右: 画用紙・色鉛筆 W271×H392mm

下段左: 画用紙・色鉛筆・えんぴつ W271×H392mm

下段右: 画用紙・色鉛筆・えんぴつ W271×H392mm

いずれも 2019 年

久保 直己 Naoki KUBO 1986年生

久保直己が通所する作業所で働いている「駒井さん」を描いたシリーズです。いろいろな服を着た「駒井さん」が独特のデフォルメで描かれており、じっと見ていると「駒井さん」の人物が想像でき、今にも語りかけてきそうです。天オアートKYOTO新道アトリエでは、「駒井さん」シリーズの他にも「高山さん」シリーズやいろいろな「職業人」シリーズも描いています。



『スズメバチ』 タックステンド W292×H211mm 2018年



『エリマキトカゲ』 タックステンド W292×H211mm 2017年

藤原 佳弘

藤原 佳弘 Yoshihiro FUJIWARA 1995年生

藤原佳弘は、「タックステンド」というスタンドグラス調に制作できる画材を用いて動物や昆虫を描き続けます。筆や鉛筆を用いず、カッターで形を切り取った生き物たちは、どれもはちきれんばかりの力強い生命を宿しているかのようです。

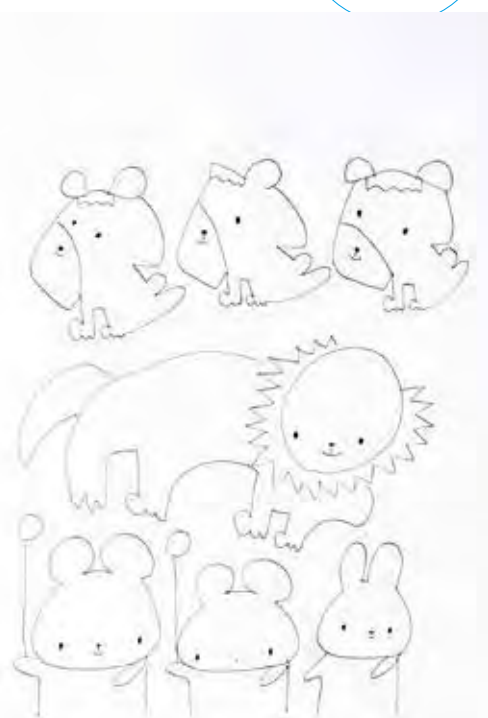
小寺 菜月

小寺 菜月 Natsuki KOTERA 1993年生

小寺菜月は、紙をハサミで切った左右対称の切り絵シリーズと、うさぎやライオンなど細い線で可愛く描かれたキャラクターの絵のシリーズがあります。二つのタッチで制作された作品は、一見同一作家の作品でないかのように思えますが、どの作品もどこかユーモラスで人懐っこさが通底しています。



『柴犬』 画用紙・コピー用紙 W352×H252mm 2018年



『タイトル不詳』 コピー用紙・鉛筆 W352×H252mm 2018年

山川 隆晟 Takaaki YAMAKAWA 1992年生

山川隆晟は、色鉛筆を用いて実在の神社や寺などの観光名所を描き続けます。建物や植物は細部まで丁寧に描かれ、名称にはローマ字併記や最寄駅の情報、時折建物の解説も書かれています。さながらガイドブックのようで、彼の絵を前にするとそこを訪れたいくなります。

山川 隆晟



『春日大社』 画用紙・鉛筆・色鉛筆 W352×H252mm 2017年



『談山神社』 画用紙・鉛筆・色鉛筆 W352×H252mm 2017年

寄稿

文字から絵に、そして「うずまき」へ

足立 佳代

●興味関心が少なかった幼児期

娘の茉莉は、現在18歳です。

今年の春に呉竹総合支援学校を卒業後、B型の事業所に通って部品の袋詰めなどの作業をしています。

平成12年に我が家の長女として誕生しました。寝返り、お座り、ハイハイなど、発達は少しずつ遅かったのですが、初めての子育てでわからないこともあり、私に似てのんびりマイペースな子なのかなと思っていました。友人の同じ年の子と発達の差が気になってきた頃、茉莉はテレビのCMに興味を持ちはじめ、番組は見ないのですが、CMになると反応してジューツと見たり時々笑ったりしていました。そんな時に「赤ちゃん」と声をかけても全く振り向きませんでした。よく考えてみると、日常の声かけにも反応せず、目線も合わないような気がして、ますます不安になっていきました。

その不安は的中し、1歳半健診で指摘されて2歳から療育に通いました。療育の中で遊びには興味関心を示さず、親子でコミュニケーションを取る手あそび歌や、こちよこちよあそびなどにも反応が全くなかったことをよく覚えています。

そして、3歳になる前に「自閉症スペクトラム」の診断を受けました。

年少から通った施設では、トランポリンやブランコ、音楽やダンスなど、好きなこ



とが増えていった、感情も豊かになっていき、3年間でグリーンと成長しました。まだこの頃は絵を描くことには興味がありませんでした。

●文字から絵に

平成19年に呉竹総合支援学校に入學して、スクールバスに乗って通学しました。通園施設とは違い、大きいお兄さんやお姉さん、たくさんの先生方がいて、始めは戸惑っていましたが、少しずつ学校生活に慣れていきました。

小学部2年になって、文字を書く練習をしましょうということになり、名前の「あだちまり」と、その時好きだった「みかん」と「もも」の文字を練習しました。家でも書かせようと思い、紙と鉛筆を渡し

した。毎日何枚か書いているうちに、だんだん文字が変形していった、好きだったアンパンマンの絵を隙間に描いたりして、デザイン画のようになっていきました。家でこんな書き方がありますと担任の先生に見せると、びっくりされました。当時は、現在の天才アートKYOTOの重光副理事長が校長先生で、生徒の絵画作品を一つ一つ額縁に入れて、学校の廊下に展示する取り組みをされていました。ギャラリー風に展示されて、個性のある作品がとても素敵に見えました。その中に茉莉の作品も展示してもらえました。

●天才アートKYOTOに参加して

小学部高学年の時、天才アートKYOTOが設立されるということになり、声をかけていただきました。まだ児童デイサービスなどが充実していなくて、余暇活動の一つになればと思い参加させていただきました。始めの頃は絵の具を使ってグラデーションに塗ったりしていましたが、ここ数年は



ぐるぐるうずまきの絵をひたすら描き続けています。学校では美術部に入ってアンパンマンシリーズのキャラクターやお友だちの顔などを描いていましたが、アトリエではうずまきなので、場所によって描くものを変えているのかなと思いました。

うずまきは色鉛筆やペンを使って描きますが、素早く色を変えてどんどん重ねていきます。その色選びは、色鉛筆が並んでいる順番に取っていったのかと思います。や、黒などの暗い色は取らず自分なりに考えているようです。学校の布加工ワークでスウェーデン刺繍をしていましたが、一段ごとに糸の色を変えて、先生に色選びのセンスがすごいと褒めてもらっていました。どのように選んでいるのか聞きたいのですが、言葉でのコミュニケーションが難しいのでわかりません。1週間ぐらい茉莉と心身を入れ替わって、日常生活がどのように見えて何を感じているのか知りたいです。

学校を卒業して、これから先はずっと長いなと思いますが、アトリエが一つの居場所としてあることがとてもありがたいです。これから、新しい作品を期待しつつ、絵を描き続けてほしいと思います。

理事長退任の ごあいさつ

高島 寛

梅雨明けが待たれる頃ですが、皆さまにはますますご健勝のことと存じ上げます。いつも当機構の活動に格段のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、私こと このたび任期満了につき当機構理事長を退任いたしました。在任中は格別のご厚誼を賜りましたこと深く感謝申し上げる次第です。

この4年間、天才アート展の開催をはじめ諸イベントに積極的に参加することと皆さまのご尽力のお陰で、京都市民のあいだで少しずつ「天才アートKYOTO」の存在が認知されてきたように思います。微力ながら当機構の活動に携わったことに喜びと若干の誇りを感じております。



しかしながら、アトリエでは当惑の連続でした。就任当初は創作活動で障がいのある人に生きがいや癒しをもたらす場として機能し、せいぜい作品の傾向を客観的に分析すればと考えていました。が、時とともに一人ひとりの内面世界にはつきりした意思が継続していることに気づきました。アトリエは寄り添うだけの場でなく、創作行為に個別に向き合う姿勢が貫かれていなければならぬと遅ればせながら思うようになりました。今はただ不明を恥じ入るばかりです。

いま障がいのある人の創作に対する社会的な支援の輪は広がっています。そして同時に当機構への期待も高まってくるはずです。どうぞ皆さまにはあらためて当機構へご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月

トピックス

レポート

社会福祉の新しい方向を
探る総合月刊誌として全国
社会福祉協議会から発行さ
れている「月刊福祉」から取
材を受け、2019年7月号
(6月6日発行)の連載企画
「人と人をつなぐ実践」とし
て4ページにわたって掲載
されました。

当初の機構立ち上げから、アトリエ運営のこと、グッズ展開まで、天才アートKYOTOの創作を支える継続的な活動が紹介されています。

掲載誌サンプルは事務局に保管していますので、ご覧になりたい方はスタッフにお問い合わせください。



【掲載情報】

「月刊福祉」に紹介されました



■ 原画や作品アートポスターの購入希望が増えています

天才アート展や企画展に加え、さまざまな機会を通じて複製画の販売やレンタル方式での貸し出しをお知らせしていますが、最近、原画を購入したいという希望が寄せられるケースが増えてきました。今までも、原画購入希望はありましたが、作家さんが個別に血縁者や知人に販売する程度で、当機構では事業として取り組んできませんでした。

しかしながら、障害者アートへの社会の関心の高まりや認知度の向上などから、少しずつではありますがマーケットとしての可能性が芽生えてきたという現状から、事業として本格的に取り組むことになりました。このたびその第一陣として、長村駿さんの作品『キムネオオハシ』が成約の運びとなりました。

原画販売に当たっては、購入者との著作権などに関する承諾書の授受や作品証明書の発行、さらには作者と機構間との取り決めなど、さまざまな約束事を整備する必要があります。準備を進めてきました。

また、数年前から駅通路や地下道などに展示した「作品アートポスター」についても、



『キムネオオハシ』 長村 駿

購入希望や問い合わせなどがあり、ニーズがあることがわかりましたので、こちらも販売していくことにしています。

原画や作品ポスターの販売などについて、ご質問やご要望がありましたら、ホームページからお問い合わせいただくか、スタッフにお声がけください。

■ 会員・寄付を募集しています

天才アートKYOTOは、当機構の趣旨や活動に賛同していただける会員を募集中です。会員は「正会員・賛助会員・名誉会員」の3種類。また、寄付金や助成金、「障害者アートミュージアムKYOTO設立支援基金」などのお申し込みも随時受け付けています。詳しくはホームページに掲載していますので、ご協力いただきますよう、よろしくお願ひ致します。

<http://tensai-art.kyoto>

■ 広告主 募集中！

『会報 天才アート』は、当機構の活動にご賛同いただける企業様や団体・組織の広告協賛を募集しています。会報の発行部数は毎月3,500部で、会員・協賛団体、関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。ご協力を、ぜひともよろしくお願ひします。

1 枠 (55×22mm) … 1万円 (4 回掲載)

● お問い合わせ・お申し込みは、
info@tensai-art.kyoto まで

〈編集後記〉

昨年9月に開催された『京都・パリ友情盟約締結記念展覧会』“描き、紡ぎ、絆”の企画運営を担当が京都市から受託しましたが、次の展開としてはパリにおいて同様の展覧会を開催すること。また、文化庁戦略的芸術文化創造推進事業の「障害者等による文化芸術活動推進プロジェクト」の採択も決定しており、今後ますます天才アートKYOTOの活動が注目を集め、重要度を増してきます。

アートマーケットにおいても、障害者が制作した作品が注目され、当機構にも原画販売の要望が高まりを見せています。こういった社会の要請にこたえて行くためには、NPO法人としての組織の充実と環境の整備、さらにはマンパワー的な体制の強化など、さまざまな面においての完成度が求められます。同時に所属する作家さんや保護者、ボランティアの皆さまと一体となった運営があつてこそ活動であり、成果であるといえます。まだまだ道半ばではありますが、ますます精進していきたいと考えています。

【表紙の作品について】

服部可菜恵は、図鑑から選んだ植物をサインペンと鮮やかな色彩のアクリル絵具を用いて描き続けています。シンプルな形状へとテフォルメされた植物たちは愛らしく生き生きとしており、とりわけ『アンズリウム』は一本の花が互いに会話をしているかのようにも見えます。どの服部作品も植物に対する彼女の優しい眼差しを感じることができます。

『アンズリウム』 服部可菜恵 Kanae HATTORI
1994年生 W391×H543mm ケント紙・アクリル・サインペン 2019年



■ 広告協賛企業 (順不同)

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

京都上鳥羽の
印刷会社

MORI
(有) 森田美術印刷

京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131

妙心寺 塔頭

養徳院

永代供養のお寺 075-461-2898



一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
**(株)共立ホーム
エンジニアリング**
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

Kuretake



吉村建設工業 (株)

京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

発展、ともに前へ…
洛和会ヘルスケアシステム®
洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院